

子どもの本や、子どもの読書活動の県内外の情報をお届けします！
山梨県立図書館 TEL055-226-2586 <http://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

●● 活動紹介 ●● おおぞらの下のおはなし会

自然観察と野外での読み聞かせを組み合わせた「おおぞらの下のおはなし会」。笛吹市春日居ふるさと図書館を中心に活動中のボランティア、「おはなしのへや もも」が主催するおはなし会をご紹介します。

●● 内容紹介 ●●

このおはなし会は、読み聞かせと自然観察会を同じ日に行い、見たもの、聞いたものを本で再確認できるおはなし会です。2006年、春日居ふるさと図書館周囲を会場としてスタートしました。その後、安全面や利用面を考慮して、会場を春日居小学校校庭へ。そして、現在では山梨岡神社境内に移動して開催されています。

自然観察で四季を感じられるよう、春夏秋冬に合わせて年4回開催。また、四季の変化が見られるよう、毎回同じ会場、山梨岡神社境内で行なわれています。時間は午前9時30分から、対象は小・中学生です。

自然観察では、子どもたちに自然観察の的確な楽しさを伝えることが重要と、乙女高原ファンクラブ代表世話人の植原彰さんを講師にお迎えしています。毎回、講師が事前に下見をして、自然観察テーマを決めます。そのテーマに合った本やその季節の本などは、おはなしのへや ももの方々が図書館に相談し、協力して用意されるそうです。

毎回の大きな流れは、自然観察の後、関連した本の読み聞かせや紹介、そして読書タイムとなっています。

●● 実際のおはなし会は… ●●

2011年11月13日（日）に行われた、秋のおはなし会に参加してきました！今回のテーマは「木の実」。

《自然観察》 講師紹介や注意事項説明の後、まずは境内の自然を観察しました。

羽のようなカエデの種。ちぎって高い所から落としてみる。プロペラのように回りながら落ちてきて楽しい。

オナガが飛んできて木の実を食べていた。本で確認したら、エノキの実だって。みんなで食べてみた。

スタジイの木。よく見ると幹に大きなキノコが…。そして、同じ木にアオゲラ(キツツキ)の巣も発見。どちらも木が弱ってきて元気がない証拠なんだって。

鳥の鳴き声が！
鳴き声からジョウビタキだと教えてくれた。

みんなでドングリを拾った。葉っぱも見ながら、どんな種類なのか本で探す。実際に食べてみたよ！



大きなクモの巣を発見。俵型の茶色いものがたくさん引っかかっている。とても奇妙な形…。なんと、それは蛾(カ)の繭(まゆ)だった！

何の実だろう？ 枝にカミソリのようなものが付いているけど…。本で調べてみよう。



ドングリを観察していたら、近くにヤママユガとクスサンという蛾(カ)の繭(まゆ)を発見。

《読み聞かせ》

その後、おはなしのへや ももの方々が関連した絵本の読み聞かせと、たくさんの本を紹介してくれました。野外で本を読んでもらうのもいいですね。



《読書タイム》

選んできてくれた本を、みんなで自由に見ました。観察したものを確認したり、読みたい本を広げたり…。ドングリや落ち葉、キノコ、種、クモ、繭(まゆ)の本などなど、図鑑や読み物、いろんな本がたくさん。本のリストもいただきました。

《終了後》 拾ったスタジイのドングリをホットプレートで焼いてくれました！感想など話しながら、みんなで食べて解散です。

【最後に】

実際に観察したものを本で探したり、すぐに確認できたりするところがとても楽しいです。自然観察は好きだけど本は苦手、また、本は好きだけど外に出るのは…という子どもたちにも、何かのきっかけになればいいなと思います。ふだん見落としがちなところにも、観察できるもの、自然を感じられるものがたくさんあることも改めて感じました。自然観察と読み聞かせ、どちらも楽しめるととても素敵なおはなし会でした。

お知らせ

次回は2012年3月18日（日）9時30分～
山梨岡神社にて開催予定です。

さらに、これまでの活動報告も行われる予定です！

・日時：3月20日（火）午前10時～

・会場：笛吹市春日居あぐり情報ステーション

みなさんぜひ参加してみませんか？

★作家 秋山 泉氏 インタビュー

秋山さんは山梨県出身。絵を担当した『東洋おじさんのカメラ』（すずきじゅんいち、榊原るみ／文 小学館 2009）は、第二次世界大戦中、アメリカの収容所に入れられていた写真家・宮武東洋をテーマにした絵本です。

—絵を描くのにはずっと鉛筆を使っているんですか？

A 中学の時から鉛筆を使っています。使いやすいということと、鉛筆画の技法書を見て「こんなに描けるんだ」と思って。シンプルさに惹かれた所もあります。硬めの鉛筆を使っています。国内メーカーのメジャーなもの。暗めの絵は濃い鉛筆を使います。消しゴムは普通のねり消しとか。

—紙も決まった物があるんですか？

A つるつるした紙、ケント紙をよく使います。必要な大きさのケント紙が無い時は水彩画用紙の裏を使ったりします。

—よく描く物とか、描くのが好きな物はありますか？

A 今は制作で陶器などの静物を描いていますが、存在感を感じる物、器とかそこに一つだけある物が好きです。山梨に住んでみて、自然が多いのでそういうものも描いていきたいです。

—好きな絵本や作家さんは？

A 画家ですが谷内六郎という、「週刊新潮」の表紙を描いていた人です。本の方はいっぱいあります。

—学校の頃など印象に残っている本はありますか？

A クールなもの。哲学書じゃないですけど、物語よりはそういうのを読みました。物語は何というか世界に入りこんで読むもので、自分が結論を早く知りたい方なので最後の方が気になってしまいます。

—ノンフィクションというか評論みたいなものですか。

A そういう文章が好きなんだろうと思います。短編を書く作家さんがいますが、短編集は好きで読んでいました。

—『東洋おじさんのカメラ』を作る過程で印象に残ったことを教えてください。

A 一つは取材面。初めに制作者と会って話を聞いた時、絵本の内容は「日系人の話」くらいでした。実際収容所のあった場所へ行って、戦争中アメリカに日本人がいて差別されていたということを初めて知って驚きました。今はどこにでも日本人がいるから、今戦争が起きて同じ状況になったらすごく影響があるだろうと思いました。アメリカにいたのは3日間で、制作者（すずき氏）のいるロサンゼルスから収容所のあったマンザナまで車で5時間くらい。マンザナは何もなくて山と道しかなかったです。2月だったので寒くて風も強く、遮る物がないので砂埃も。こういう所に収容所があったのかと、そういう風景が心に残っています。作品は作者がその世界に入り込んで作るものだと思うので、ちょっとでもその風景を見た事があるのとないのとは大きく違うと思いました。アメリカでは日系人についての本もたくさんあって、皆話を聞くようです。収容所の写真も残っていて、写っている人は楽しそうな表情をしているんですよ。でもそれはカメラマンの人柄によるもので、カメラが向いていない時は違ったかもしれない。（写真を見せていただきました。壊された収容所を記憶に残そうという動きがあり、監視台や建設中の小屋が写っていました。）

絵本を作っていて、こういう（取材した）写真があって良か

ったと思いました。

もう一つは制作面。いつもは自由に描いているのが、話し合う中で出た意見を通して絵を変えていったり、最初のアイデアと変わったりして大変でした。「実在の人物に似せて違う表情を描く」というのが難しかったです。それから当時のトラックはどうだったかとか、資料集めも大変でした。（アメリカ人が写真を撮る場面で）当時のカメラはどうだったかとか。現実的にそっくりに描くタイプなので、その利点を生かして作ろうということになりました。終わってみると、自分の制作の色がもっと出せればよかったと思います。制作者が監督なので多分自分のイメージがあって、こちらが描く絵に対して具体的に指示がありました。自分としては、なるべく現実的にわかった方が良かったかなと、当時の様子がわかるように描いていました。

（制作途中の絵本を見せていただきましたが、作る段階で削られた部分も色々あったそうです。）

—普通に制作する時と他の人と一緒に本を作る時で違った所は？

A 自分で作る時との違いは、自分の意見ばかりが通らないこと。自分で描く時は気分が乗って描けるけど、絵本を作る時は他人の意見で良くなっていくというイメージがありました。監督は色んな人と意見を出して作っていくという人なので作品は徐々に変わっていきました。大変でしたが勉強になりました。色々な物を描くというのはこれからもやっていきたいです。

—1枚の画用紙にコマ割りして書いた状態からできるまではどのくらい？

A 1年かかりました。描くのに時間がかかったり、描いたものがダメになったり。文字の部分はデザイナーさんが担当しているんですが、「完成度の高い」フォント、昔からずっと使われている字体だそうです。そういう風にして絵本があるんだなと思いました。それから、漫画とか絵本に比べると、自分で作る時というのはすごく自分勝手だなんて感じます。自分がいいと思ったものを人に見せて「いい」って言ってもらっている。

—これから取り組みたいこと、今後の予定などあれば教えてください。

A 今と同じことも続けつつ、山梨に帰ってきているので、風景とか日常にある物も描いていきたいです。生活をしながら、自分のものを見つけていけたらと思います。本の挿絵などもやってみたいです。新しい題材に挑戦できるので。予定では3月30日（金）～4月1日（日）のアートフェア東京2012（東京国際フォーラム）に出展します。

—写真かと思ってしまう絵ですが、描く時はただもう対象を見ているんですか？

A そうですね。単純な形の物、クセのない物を描いています。あまりコントラストがつかないように心がけているので、写真が撮りづらいと言われます。ピントが合わせづらくて、撮る時は色の付いた物を前に置いてピントを合わせることもあります。

2012.1.13 山梨県立図書館にて

秋山さんの絵は、人物や物が丁寧に描写されていて、写真にはない味を感じます。
これからもご活躍をお祈りしています。

【略歴】 1982 年甲府市生まれ。

東京藝術大学、同大学院を修了し、O 氏記念賞を受賞。現在は「Sound of Silence」
(2010) 等、東京・小林画廊を中心に個展やグループ展を行っている。

*詳しくは「アートフェア東京 2012」 <http://www.artfairtokyo.com/>

秋山泉氏ホームページ「Izumi AKIYAMA 秋山 泉」<http://izumiakiyama.web.fc2.com/>



ジュンク堂岡島甲府店 訪問！

2011 年 10 月に岡島百貨店にオープンしたジュンク堂書店。蔵書約 80 万冊を誇る県内最大の書店として話題になっています。そこで、児童書・絵本の担当者に甲府店の様子を伺いました。

■もともとは専門書が売りだが、甲府店では実用書やコミック、また、それと同じぐらいに児童書・絵本が売れている。

■品揃えが豊富なので、児童書・絵本も出版・流通されているものは、なるべく全部置いておきたい。

■新刊書や季節のもの、ジュンク堂のイベントや原画展に関連したもの、岡島の催事と連動したものなど、テーマを設定して展示も行っている。

■訪問時（1 月）に伺った、甲府店で人気の児童書・絵本は、『かいけつゾロリ』シリーズ（原ゆたか/作・絵 ポプラ社）や『どんぐりむらのぱんやさん』（なかやみわ/さく 学研教育出版 2011）などの新刊書。12 月まで展示していたクリスマスの絵本。『どうぞのいす』（香山美子/作 柿本幸造/絵 ひさかたチャイルド 1981）ほか定番絵本など。
特に『どうぞのいす』は他店舗よりだいぶ売れている。

■担当者イチオシの絵本作家・画家は

荒井良二 かこさとし 清水真裕

イチオシの児童文学作家は

あんびるやすこ 上橋菜穂子 荻原規子 角野栄子



■他店舗に比べると、若いお父さん、お母さんと子ども、おじいちゃん、おばあちゃんと孫、という組み合わせで来店される方も多い。また、学習参考書を増やしたところ、中高生の姿も多くなった。

とのことでした。

担当者は「ぜひ一度足を運んで、ジュンク堂の良さを見ていただきたいですね。」

とおっしゃっていました。

訪問時にも大勢のお客さんがいらっしゃいましたが、たくさんの本を实际手に取って見られるところがいいですね！